

# おあしす



ケニア北部乾燥地の牧畜民の日常風景（写真提供：村上文明）

\*\*\*\*\*  
**日本沙漠学会 2015 年 第 26 回学術大会開催のお知らせ**（開催日が変更になりました）  
\*\*\*\*\*

**1. 大会概要（当初の予定より一週間早まりましたのでご注意ください）**

日時：2015 年 5 月 23 日（土）～24 日（日）

場所：カレッジプラザ（会場予約の最終確定は 2015 年 2 月になってからのため、他会場へ変更の可能性  
があります。他会場も秋田駅から徒歩圏内ですので、ホテルの予約は秋田駅前を中心にお考えください）

〒010-0001 秋田市中通 2-1-51 明德館ビル 2F

カレッジプラザへのアクセス

<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1134380225861/>

**2. 変更理由**

東日本大震災の鎮魂と復興を願う東北六魂祭が、5 月 30～31 日に秋田市内で開催されることが 1 月 20 日  
に発表されました（<http://www.rokkon.jp/>）。

25 万人を超える来場者が予想され、2 月 5 日時点ですでに 5 月 30～31 日の秋田市内のホテルは満室にな  
っております。交通機関の渋滞も想定されることから当初の日程での開催は困難と考え、やむを得ず日程を  
変更することといたしました。会員諸兄には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご了解いただけますようお  
願い申し上げる次第です。

**3. 研究発表申し込み**

発表申し込み締め切り：2015 年 2 月 27 日（金）必着

発表形式は口頭もしくはポスターのいずれかとします。なお、申込者数・会場スペースの都合により、調  
整させていただく事がありますので、あらかじめご了承ください。口頭発表は、プロジェクターによる PC フ  
ァイル（PDF, ppt 等）での発表となります。

申し込みは、締め切り日までに E-mail 添付文書（MS Word2010 で編集できる形式）または郵送（期日必  
着）で、以下の様式にそって必要事項を記入の上、実行委員会事務局へお送りください。申し込まれた方に  
は、講演要旨の様式・発表時間等をお知らせします。

発表要旨締め切り：2015 年 3 月 27 日（金）必着

**4. 参加申し込み**

参加申し込み締め切り：2015 年 5 月 10 日（日）必着

3 月発行予定の学会誌（24 巻 4 号）同封のはがきにて、会員の方すべてがご回答ください。ご欠席の場合  
でも総会成立のためには委任状が必要となります。またご出席の場合には事前登録扱いになり参加費が割引  
になります。

**5. 問い合わせ・研究発表申し込み先**

第 26 回 日本沙漠学会学術大会実行委員会 事務局

〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西 241-438

秋田県立大学生物資源科学部 石川祐一

Tel : 018-872-1620 FAX : 018-872-1677 E-mail: jaals2015@gmail.com

[委員長] 縄田浩志 (秋田大学)

[実行委員] 日高伸・早川敦 (秋田県立大学)

[事務局] 石川祐一 (秋田県立大学)

詳細はホームページ <http://www.jaals.net/> をご覧ください。

-----**研究発表申し込み様式** (下記の項目に従ってご記入下さい) -----

1. 発表種別 : (口頭 or ポスター)
2. 題目 (和文) :
3. 題目 (英文) :
4. 発表者氏名 : ※なお, 登壇者は 2014 年度学会員であることを要します.
5. 発表者所属 :
6. 概要 : (和文 200 字)
7. 連絡先 : (氏名, 住所及び TEL/FAX 番号, E-mail アドレス等連絡方法)

\*\*\*\*\*  
**2015年 日本沙漠学会 秋季シンポジウムのお知らせ**  
\*\*\*\*\*

日本沙漠学会では、2015年度の秋季シンポジウムを、『乾燥地および半乾燥地における農村開発技術協力の課題と展望』というテーマで企画しております。会場は、NTC コンサルタント会議室（東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー 20階）、開催日は、2015年の10月もしくは11月の土曜日を予定しております。詳細が決まりましたら、学会HP（<http://www.jaals.net/>）および本誌（おあしす）にてお知らせいたします。皆様ご参加ください。

\*\*\*\*\*  
**学会事務局からのお知らせ ～登録Eメールアドレスをご確認ください～**  
\*\*\*\*\*

日本沙漠学会事務局では、会員の皆様への迅速な情報発信を目指し、本誌（おあしす）に併せ、学会HP（<http://www.jaals.net/>）およびEメールにてご連絡を差し上げております。とくにEメールでは、2014年10月23日、2014年11月18日、2015年1月10日に、会員名簿に登録されているEメールアドレス宛のご連絡を差し上げました。ところが、複数の会員の方々に連絡が届きませんでした。上記の日付で学会からのEメールがお手元に届いていない場合は、お手数をおかけいたしますが、Eメールアドレスを学会宛（[desert@nodai.ac.jp](mailto:desert@nodai.ac.jp)）にご連絡くださいますよう、お願いいたします。なお今後も、学会からのお知らせをEメールにてご連絡させていただくことがありますことをご了承いただければ幸いです。

\*\*\*\*\*

## 2014 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い (再掲)

\*\*\*\*\*

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 小島 紀徳  
学会賞審査委員会委員長 白石 雅美

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1.学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的，実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は，原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する。

2.推薦期限 **2015 年 2 月 25 日(水) 当日消印有効**

3.推薦方法 以下の書類を期限までに学会賞審査委員会(幹事)宛に郵送して下さい。なお，推薦には「自薦」は含まれません。

(1)日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合

様式 1 の推薦書 1 部  
推薦に関する資料 1 組

(2)日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合

様式 2 の推薦書 1 部  
推薦に関する業績 1 組

#### 4.宛先(照会先)

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科  
広域環境情報学研究室 気付 日本沙漠学会学会賞審査委員会 幹事 豊田 裕道  
TEL03-5477-2494 FAX03-5477-2620 E-mail:h1toyoda@nodai.ac.jp

#### 5.その他

応募された書類は返却しませんので，必要な場合は写しを保管下さい。

なお，過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ(<http://www.jaals.net/>)をご参照下さい。

様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用)

平成 年 月 日

日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

- 1.推薦者 所属：  
氏名： 印  
住所・電話：
- 2.被推薦者 所属：  
氏名： 生年 年 月 日  
住所・電話：  
入会年：
- 3.推薦業績 題目：
- 4.推薦理由
- 5.推薦業績に関する資料リストなど

様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用)

平成 年 月 日

日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

- 1.推薦者 所属：  
氏名： 印  
住所・電話：
- 2.被推薦者 所属：  
氏名： 生年 年 月 日  
住所・電話：  
入会年：
- 3.推薦業績 題目：
- 4.推薦理由
- 5.推薦業績に関する資料リストなど

著者名(共著の場合は全員), 題目, 掲載誌名, 巻号, 頁, 発行年を記載すること

----- 記入上の注意 -----

- 1)書 式 A4 縦置横書き,明朝体 12 ポイント,上下左右マージン 2.0cm 以上,1 行文字数 35~40 字, 1 ページ行数 35~40 行
- 2)被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい
- 3)推薦理由 簡条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい  
簡条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい
- 4)様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5.資料はコピーなどを添付して下さい
- 5)様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5.業績リストは研究業績の別刷り (コピー可)を添付して下さい

\*\*\*\*\*

## 学会記事

\*\*\*\*\*

### 日本沙漠学会第 117 回理事会 議事録

日 時：2014 年 10 月 17 日（金）15:00～17:30

場 所：東京農業大学世田谷キャンパス 生産環境  
工学科バイオロボティクス研究室内木工室

出 席：小島紀徳（会長），吉川 賢，渡邊文雄  
（以上，副会長），鈴木伸治，田島 淳，  
田中 徹，豊田裕道，森尾貴広，矢沢勇樹  
（以上，理事），高橋新平，中村 徹（以  
上，監事），牛木久雄，的場泰信，島田沢  
彦（以上，オブザーバー）

委任状：酒井裕司，白石雅美，川端良子，吉崎真司  
（以上，理事）

#### I. 審議事項

##### 1. 第 116 回理事会議事録確認

- ・ 前回の理事会で提案がなされたとおり，メールにより事前審議し Web に掲載済みであるが，今後メールリングリスト等で迅速に周知する．また，Web に up した時点で配信されるシステムを検討する．

##### 2. 2014 年秋季シンポジウムについて

- ・ 平成 26 年 11 月 15 日（土）に東京農工大学小金井キャンパスで開催予定．
- ・ おあしす掲載原稿を確認した．講演者は，三宅光葉氏，森尾貴広氏，川田清和氏，川端良子氏，豊田裕道氏の 5 名．

##### 3. 2015 年第 26 回学術大会（秋田）について

- ・ 平成 27 年 5 月 30・31 日開催予定．

##### 4. 学会賞受賞候補者の推薦のお願いについて

- ・ おあしす掲載原稿を確認した．締め切りは平成 27 年 2 月 25 日（水）．

##### 5. その他

- ・ NTC インターナショナル（株）より賛助会員として入会したいとの申し入れがあり承認した．
- ・ 賛助会員から学会誌への広告掲載の要望があり掲載ポリシーについて議論した結果，おあ

しす内に半ページ以下での掲載であれば無料とすることを決定した．また，1 頁以上のものについては掲載料を取る方向で継続審議とした．

- ・ 賛助会員の Web ページへのバナーの設置について，バナー設置ページ，体裁などについて継続審議とした．
- ・ 田島沙漠工学分科会長から，東京農業大学沙漠に緑を育てる会 20 周年記念シンポジウムと沙漠工学分科会の講演会を共催で行いたいとの提案があり承認された．平成 26 年 12 月 5 日，東京農業大学で開催予定．
- ・ 学会誌の賛助会員，購読会員等への送付について，現在は総務から別途送っているが，佐藤印刷に全て依頼する．リストを矢沢財務担当に送る．
- ・ 次回理事会について：平成 27 年 1 月 10 日（土）に行うこととした．
- ・ 第 119 回理事会・評議員会は，平成 27 年 4 月 17 日（金）に行うこととした．
- ・ 第 120 回理事会は，平成 27 年 7 月 17（金）に行うこととした．

#### II. 報告事項

##### 1. 各委員会報告

- ・ 編集委員会：編集作業状況，J-Stage 利用申込書，年間打ち合わせスケジュール，参加者を確認した．今後の特集記事は，乾燥地分科会，沙漠工学分科会，ICAL2 を予定している．
- ・ 企画委員会：今後の大会，開催予定地を確認した．2015 年秋季大会は東京（NTC インターナショナル）で開催する．2016 年度学術大会（第 27 回）は鳥取大学，2016 年秋季大会は筑波大学で開催予定．DT については 2015 年にエジプトでの開催，ICAL3 はトルコでの開催を予定しているが今後のやり方について検討が必要であることを確認した．

- ・ 総務委員会：ICAL2（平成 26 年 9 月 10～12 日，サマルカンド）の報告があった。
- 2. 各分科会報告
  - ・ 乾燥地農学分科会：第 26 回講演会の開催について案内があった。11 月 4 日（火）。テーマは「沙漠化対処の新技术－温故知新－」。
- 3. その他
  - ・ TF リモセンの担当者は，島田沢彦 Web 担当にお願いすることを確認した。
  - ・ [おあしす] 24 (2)掲載の書評，コラムの内容について確認した。
  - ・ 吉川理事より，本学会の後援による公開シンポジウム「乾燥地における樹木・森林の生理と生態（2014 年 12 月 13 日，岡山大学）」について案内があった（詳細は [おあしす] 24 (1)に掲載済）。



\* \* \* \* \* 会 員 動 向 \* \* \* \* \*

●新入会員（2014 年度入会）

正会員

阿部 靖志（ID: 1063, 海外農業開発コンサルタ  
ンツ協会）

●退会会員

正会員

富永英里子

\*\*\*\*\* 賛助会員・団体会員名簿 \*\*\*\*\*

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel:042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel:03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	164-8721	東京都中野区本町 1-32-2	Tel:03-5354-3621
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel:0424-95-1060

\*\*\*\*\*

## コラム

### ケニア乾燥地の現場から（その2）

佐藤周一・村上文明（日本工営（株）開発コンサルタント）

前回は北部ケニア乾燥地の一般状況を紹介したが、今回は牧畜民の生きる姿を紹介したい。

#### **牧畜民の食事**

牧畜民と出会って最初に驚いたのは、彼らの食事だ。牧畜民は基本的には、ラクダ、牛、ヤギなどのミルクと採取した家畜の血のみを摂取して長年生きてきた。家畜の血を小さなバケツに集めた後、そこに棒をいれかき混ぜると、血餅と呼ばれる澱（おり）が絡みつく。それを除いた後、ミルクに混ぜて飲むのである。考えてみると、血液とミルクは完全栄養食であり、新鮮なものなら病気の心配もない。飲んだ経験のある日本人数人の話では「さっぱりとして美味しい」そうである。家畜を移動させている間、牧畜民は料理の材料や道具の持参は不要で身軽で、食事の心配もなく合理的でもある。なお、近年牧畜民の定住化が進み、また援助で穀物が無料配布され、牧畜民も徐々に穀物も食するようになった。現在は、純粋にミルクと血だけで腹を満たしている人の数はそう多くないと思われる。



写真-1 ヤギの血（かき混ぜて、血餅をとる）

#### **牧畜民の家畜認識能力**

ケニア北部の牧畜民と出会い最も驚いたのは、彼らの家畜認識能力の凄さである。自分が所有している家畜の全てを認識しているというのだ。ある人類学者が試しにヤギの写真を撮影し牧畜民に見せたところ、自分の家畜かどうかを正確に言い当てたそうだ。驚くのはそれだけではない。自分の家畜各々の親の由来が頭に入っているのだ。このヤギの母親はどこでどの親から生まれたか、など。また、我々には「ラクダ色」一種類にしか見えないヒトコブラクダの色も、牧畜民は何種類にも色分けできるのにも驚く。長年家畜の放牧で生計を立てるために必要に迫られて獲得した認識能力であろう。19世紀の著名な博物学者ジャン・バティスト・ラマルクが提唱した進化論「獲得形質は遺伝する」の実証例かもしれない。ちなみに、ラマルクはダーウィンより65歳若く、進化論の先駆者である。

#### **牧畜民の人間関係の構築**

当地を訪問した外国人が非常に面食らうことの一つが牧畜民による「ねだり」の激しさだ。お金に始まり、食べ物、飲み物、腕時計、装飾品などなど。しかし、佐藤俊(2002)によれば、これはよそ者だからというわけではない。牧畜民の間でも頻繁に「ねだり」そして「ねだられて」いる。貧しい者が貧しい者にねだることも多々あり、ねだられた者はたとえ貧しくても比較的寛容に物を分け与えるという。これは彼ら独自の人間関係の構築方法なのである。自然を相手に生活を営む牧畜民は、時には無慈悲なほどの自然の猛威にさらされ、最悪の場合、財産である家畜が全滅し、身ぐるみ剥がされる状態になる。その場合、頼れるのは周りの人々の支援である。この時に効いてくるのが日頃の人間関係である。そこで彼らは、非常時のリスクヘッジとして、日頃から他人に貸しを作っているようだ。このような事が日常的に行われ、貸し借りをベースとした人間関係の構築がなされる。さらに彼らの社

会では、挨拶なども、他者との関係性を構築する一つのツールとして非常に大切であるという。遠方の友人が1日かけて歩いて家へ訪ねて来たのち、挨拶と世間話だけをして、すぐに帰っていくようなことはざらにあるらしい。彼らにとって、挨拶と世間話をするのは、それほど重要なことなのだ。そのため1日くらい歩くのを苦にも思わない。ドライな土地で練り広げられる極めてウェットな人間模様である。こうして人的ネットワーク太くしていくという。厳しい辺境の地で生き延びるための知恵である。

## **牧畜民の情報交換**

牧畜民は、乾期になると草と水を求めて家畜を連れて放牧に出かけるが、求めているモノを手に入れる為の情報を、自分の経験と判断のみに頼るには、対象地域があまりにも広大である。そこで牧畜民は、道中で別の牧畜民に出くわすと必ず立ち止まり、時間をかけて入念に情報交換をするらしい。これは当地を訪問したある人類学者から聞いた話だが、彼がある町を出る直前に些細な事件があったが、彼が車で遠方の別の村（携帯電話が通じないところ）に着いた時には、その事件のことを村の人々は既に知っていたというのだ。「悪事千里を走る」とはいうが、この地ではどんな情報もあつという間に伝わるようだ。したがって、我々の現地での活動や動きも各地の村々に知れ渡っているに相違ない。特によそ者である我々は、現地での言動に細心の注意を払わなければならないということでもある。

## **牧畜民と携帯電話**

近年、携帯電話が最も重要なコミュニケーション・ツールになっている。ケニアでの携帯電話の普及は東アフリカ随一である。北部ケニアの牧畜民にとっても、携帯電話は不可欠なツールとなりつつあり、携帯電話の普及速度は目覚ましい。湖中（2012）のケニアの牧畜社会における携帯電話利用に関する調査によれば、町から7kmほど離れたあるケニアの牧畜民の村では、村が携帯電話の通話圏内に入った4年後に、成人男性の携帯電話保有率は77%に達していた。成人の識字率が低いこの村では、文字が読めない人は携帯電話のアドレス帳に登録した宛先を画像として認識するらしい。携帯電話で話す内容だが、彼らにとって決して安くはない電話代を支払って通話するのだから、大事な用件（家畜の探索・売買、牧草地の降雨状況など）が主であると思いきや、意外にも、連絡・挨拶・相互扶助・消息等の個人情報交換が約8割を占め、家畜関連の通話は全体利用の1割にも満たなかったとのことである。彼らの社会における「挨拶」の重要性を考えると納得がいく。誰しも1日中歩いて友人に挨拶に行くよりも、値が張っても電話で挨拶を済ますほうが良いに決まっている。

今回、現地調査の一環で「家畜を売って得たお金を何に使いたい」を遊牧民の方々の村で聞いたところ、1位が食料購入、2位が教育費、3位が携帯電話購入、であった。現地の町では安い中古の携帯電話も売っており、中にはボタンの文字が磨り減ったものもあるが、文字が読めない遊牧民にとっては関係ない。安ければ良いのだ。

ところで、当地の牧畜民は、自らをケニアの国民とは認識していないらしい。彼らは、首都ナイロビに行く事を「ケニアに行く」と表現する。しかし今後、携帯電話を通じた情報交換の進展とともに、得られる情報の範囲が広がり、自分達がケニアの国民であるとの認識が徐々に生まれてくるのではないだろうか。



写真-2 携帯電話で友達と話す牧畜民

## **北部ケニアの携帯電話事情**

北部ケニア一帯では、携帯電話の電波が届く地域は極めて限られ、圏内と言われる村やその周辺でも、電波の入りはかなり悪い。しかし牧畜民達は、それ以外の場所で電波が入りやすいポイントを知っているのには驚かされる。それは小高い丘の上であることが多いが、なんの変哲もない平坦な所で突如として電波が入る摩訶不思議なホットスポットも存在する。彼ら曰く「電波の通り道」とのこと。その地点に来ると急に電話がかけられる。しかしそこから100mも離れると電波シグナルが消える。このホットスポットはアカシヤの大木が目印とのことで、現地の人々は「アンテナの木」と呼んでいる。多くの車が停車し携帯電話をしている人達をみると、ホットスポットの存在が広く知られていることが分かる。



写真-3 アカシヤの木の下の携帯電話ホットスポット

## **引用文献**

佐藤俊編（2002）：「遊牧民の世界」京都大学学術出版会

湖中真哉（2012）：「アフリカ牧畜社会における携帯電話利用—ケニアの牧畜社会の事例—」国立民族学博物館調査報告，106:207-226

(つづく)